

新春挨拶

日本包装管理士会
会長 古平 篤

新年、明けましておめでとうございます。
日本包装管理士会 会長、25期の古平 篤（こだいら あつし）
です。2026年の幕開けにあたり、会員の皆様のご健康とご多
幸を心よりお祈り申し上げます。会長に就任してから一年
半、皆様に支えていただきながら活動を進めてまいりました。
改めて深く感謝申し上げます。

振り返れば2025年は、国内外で実に多くの出来事がありました。
大阪・関西万博の開催、米国ではトランプ大統領の就任による相互関税の発動、長嶋茂雄さんの逝去、各地で問題
となった熊の出没、高市総理大臣の就任、続く物価高など、
社会を大きく揺り動かす話題が相次ぎました。

包装業界においても例外ではなく、EUの「包装・包装廃棄物規則（PPWR）」が2025年2月に発効し、2026年8月から順次適用が始まります。さらに、国内でも紙ストロー廃止の動きが生じるなど、真の環境負荷低減対応は待ったなしの状況です。まさに変化の只中であり、皆様も日々ご苦労が多いこと
と思います。

そうした中、日本包装管理士会では、セミナー・見学会・
情報懇親会など、学びと交流の場を絶やすことなく開催して
まいりました。コロナ禍以降は会場とオンラインを併用した
ハイブリッド開催が中心となり、時代に合わせた柔軟な運営
を進めています。見学会については、現地での開催にこだわり、
実際の現場に触れ、最後に情報交換の時間を設けるなど、学びの質を高める工夫をしてきました。

現代はまさに情報化の時代であり、世の中には真偽さまざま
な情報が溢れています。だからこそ当会では、包装の専門
家として本当に価値ある情報を選び抜き、会員の皆様にお届
けすることを使命と考えています。その一環として、現在、
組織体制の再構築を進めており、より身近で参加しやすい会
を目指して改革を行っています。詳細につきましては、今後
の総会等で改めてご説明いたします。

また、会の活動をより活発にするため、新たに本部理事と
してご協力いただける方を募集しております。包装管理士会の
未来づくりに力を貸していただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ本部事務所までご連絡ください。

(次ページに続きます。)



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす
日本包装管理士会 会報
No.140

**ipp
news**

《INDEX》

日本包装管理士会 会長挨拶	1
日本包装管理士会選定 2025年包装界・10大ニュース	4
本部だより	6
支部だより	8

ipp news
2026年1月26日発行
編集人／道明 誠
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

今年は、東京ビッグサイトにて「TOKYO PACK」が2026年10月14日から16日まで開催されます。日本包装管理士会としても会場内にブースを設け、同時に4団体によるテクニカルセミナーを企画しております。多くの皆様に足を運んでいただければ幸いです。さらに今年度より、海外包装展の視察や各国包装団体との交流を再開する予定です。JPIとは異なる切り口で、国際的な視野を広げる貴重な機会にしたいと考えております。

今年は午年です。「老いたる馬は道を忘れず」という言葉があります。長年の経験は確かな判断をもたらす、という意味です。包装管理士としての経験を重ね、互いに学び合い、皆で成長していく一年にしてまいりましょう。

終わりに、会員皆様のご健勝とますますのご活躍を心より祈念し、新年のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



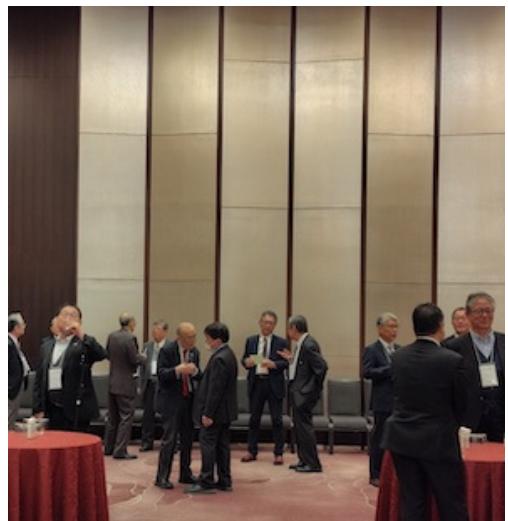
2026年 包装界合同新年会 の報告

2026年 包装界合同新年会 開催報告

古平 篤（25期）

2026年1月7日（水）12時より、公益社団法人日本包装技術協会主催の「2026年 包装界合同新年会」が、東京・丸の内の東京会館（三階ローズルーム）にて開催されました。

本新年会は、包装業界に関わるさまざまな分野の関係者が集い、新しい年の始まりを共に祝うとともに、日頃の取り組みや思いを共有する場として、毎年正月に開催されている恒例行事です。今年は約500名が参加し、会場は新年らしい明るく和やかな雰囲気に包まれました。開会にあたり、公益社団法人日本包装技術協会 会長の大塚一男氏（東洋製罐グループホールディングス株式会社 取締役会長）より挨拶があり、新年を迎えるにあたっての所感とともに、包装業界が今後も力を合わせ、社会や環境の変化に柔軟に対応していくことの大切さが語られました。参加者はその言葉に静かに耳を傾け、新たな一年への思いを新たにしている様子でした。





続いて、来賓として経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐の森下龍樹氏より、業界への期待や今後の展望について、温かい励ましの言葉が述べられました。その後、公益社団法人日本包装技術協会副会長の猪野薰氏（DIC株式会社 取締役会長）による乾杯の挨拶と音頭をもって、懇親会がスタートしました。会場には歓談の輪が広がり、久しぶりに顔を合わせる参加者同士が近況を語り合う姿や、新たな出会いをきっかけに活発な意見交換を行う様子が各所で見られました。

懇親会では、現場での取り組みや業界が抱える課題、今後の展望などについて、立場や分野を超えた話題が交わされ、終始和やかながらも前向きな空気に満ちていました。こうした交流は、日頃の業務では得がたい貴重な機会であり、今後の連携や新たな発想につながるものと期待されます。

本新年会は10団体による合同開催で、日本包装管理士会からは10名が参加し、他団体の関係者との交流を通じて、今後の活動に向けた意見交換や親睦を深めることができました。また、会の後半には恒例のお年玉抽選会が行われ、抽選で8名の方に豪華賞品が贈られました。発表のたびに会場から歓声が上がり、新年会らしい和やかな盛り上がりを見せました。

最後に、2026年が包装業界にとって実り多く、さらなる発展につながる一年となることを願い、13時25分、名残を惜しみつつ閉会となりました。



日本包装管理士会選定 「2025年包装界・ 10大ニュース」

2025年は大阪・関西万博もあり訪日外国人が過去最高になる一方で、トランプ関税と円安が日本経済に影響した年といえる。株価はAI関連でうなぎ上りに5万円を超えたが、物価も上がった。包装業界は主な市場が国内のため関税の影響を受けにくいが、円安は包装材のコストを押し上げる要因になっている。包装の法規制も新技術も進化していることがニュースから読み取れる。

1. 物価高が生活と包装業界を直撃した一年

2025年は物価高が国民生活を直撃した。米国の関税強化による輸入品のコスト増に加え、国内ではコメ価格が大幅に上昇し、食品関連の支出が膨らんだ。こうした動きは包装業界にも波及し、素材費・物流費・人件費の高騰が例年にも増して重くのしかかり、段ボール原紙や包装資材の価格改定につながった。食品メーカーでも包材費増を背景に値上げが進み、生活必需品の物価上昇が一段と強まった。

2. 大阪・関西万博が示す包装の未来像

大阪・関西万博では、包装と輸送の融合が新たな価値を生み出した。C社やS社は、会場内で使用済みボトルを再生する「ボトルtoボトル」実証を実施、日本パッケージデザイン協会は「EARTH MART」で環境と文化を結ぶ「日本の食の知恵のパッケージ」を展示した。自動搬送・再利用梱包技術も公開され、包装資材が輸送や展示の一部として機能。さらに、循環・デザイン・物流を一体化した“体験型パッケージ”が次世代の産業モデルを示した。

3. 紙ストロー廃止の動きが見直されている

紙ストロー廃止の動きは当初の「脱プラ」代替品としての普及後、品質問題（ふやける、味が変わる）や、リサイクルが困難な点から見直されています。真の環境負荷低減を目指し、企業は紙から、より耐久性があり環境性能も高いバイオプラスチック製ストロー（例：S社の一部店舗での見直し）や、ストローレスの蓋（例：M社）への移行を進めている。

4. マイクロプラスチック、深海5,000メートルまで拡散

各国の研究で、マイクロプラスチック（MP）が海面だけでなく深海でも検出される実態が明らかになった。海洋研究開発機構（JAMSTEC）の解析では、1～100μmのMPが海中で生物付着や有機物との凝集により重くなり沈降し、深海にまで達することが確認された。英NOCは、海底を流れ下る海中雪崩（混濁流）がMPを大量に深層へ運ぶ要因と報告。海洋全層への拡散が現実味を帯びる中、包装業界には素材転換や海洋プラ漏出防止の取組みが求められている。

5. 世界中で加速する包装規制

2025年2月にEUのPPWR（包装・包装廃棄物規制）が発効し、2026年8月から順次適用が開始される。これは再利用義務や再資源化率の数値目標を明確化し、国際的な包装基準を大きく転換させた。また、米国では複数の州でEPR（拡大生産者責任）法が進展し、一部の州では包装の最低再生材料含有規則が施行、罰則も適用される。また、複数の州でリサイクル禁止品（発泡PS製食品容器等）の流通も禁止され

ている。アジアでは国によりばらつきはあるが、いくつかのASEAN諸国でEPR制度を実施している。それぞれ、法的枠組みを順守する対応が必要となる。

6. 非食品PETを飲料ボトルへ 9社連携の国内初ケミカル再生

飲料・日用品・化粧品・電子部品など複数の業界が連携し、非食品用途のPET樹脂を原料にケミカルリサイクルで再生し、飲料ボトルだけでなく化粧品容器など多用途の容器に活用する取り組みが国内で初めて始まった。工業用フィルム端材や使用済み化粧品容器、自販機サンプルなどを回収し、専門企業が高純度の再生樹脂へ転換。業界横断の協業により、プラスチック資源循環の拡大が一段と進んでいる。

7. 塩水で原料まで分解できる超分子プラスチックを開発

理化学研究所などの国際研究チームは、塩水（海水など）で分解する、超分子プラスチックを開発した。このプラスチックは一般のプラスチックと異なり、塩水（海水）に入れると分解してモノマーに戻る性質があり、モノマーはバクテリアなどにより分解する。よって、マイクロプラスチックを形成しない。更に、成型加工性や耐熱性がありガラス状の透明でリン原子を含むので難燃性である。今後、3Dプリント等いろいろな応用が考えられる。

8. 食品接触包装材の「ポジティブリスト制度」を 2025年6月1日から実施

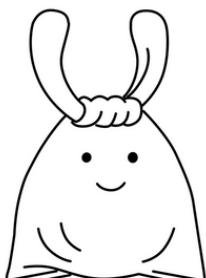
日本では、改正食品衛生法により2025年6月1日からポリマー・添加物・モノマー等を対象とした食品用容器包装材の「ポジティブリスト（使用許可物質リスト）」制度の本格適用を開始。これにより再利用材料やリサイクル材の安全性証明が必須となる他、本制度に関連する資材メーカー・設計会社は、素材選定、添加物管理等が責務とされ、日本でも国際基準に沿った化学物質管理強化への対応が急がれる。

9. 国内化学大手3社による国内ポリオレフィン事業の統合

ポリオレフィン(PO)は包装材をはじめとしてその用途は多岐にわたり、国内産業にとって欠かすことができない素材であるが、国内需要は減少する傾向である。中国の供給過剰もあり、PO事業の競争激化はさらに進むことが見込まれる。1990年代より統廃合は行われてきたが、今回の統合により、国内のPO生産体制を最適化し、持続可能なグリーンケミカル事業の実現に向けた取り組みを加速するという。

10. 「暮らしの包装商品展2025」 「JAPAN PACK 2025 日本包装産業展」が開催

日本包装技術協会は、10月3・4日埼玉県越谷市の大型商業施設において、「暮らしの包装商品展2025」を開催し、「2025日本パッケージングコンテスト」受賞作品の展示や、出展社スタンプラリーなどを実施。2日間で9,504名の来場が報告された。また、10月7日～10日、東京ビッグサイトにおいて、包装機械工業会「JAPAN PACK 2025」が開催された。様々な包装に関する展示がある中で、教育や機械設備、生産管理のDX化、近年の猛暑に対する熱中症対策などの展示が特徴的であり、33,464名の来場が報告された。



本部だより

日本包装管理士会は11月21日（金）、60期生歓迎セミナーをオンラインで開催し、29名が参加しました。60期生を含めた幅広い参加者が集まり、祝いと学習の場となりました。冒頭では古平会長より、資格取得までの努力へのねぎらいと、今後は仲間とのつながりを大切にしてほしいとのメッセージが述べされました。

続いて道明より、日本包装管理士会の活動として、セミナーや研究会、視察など学びと交流の機会を通じて多様なつながりが生まれることを紹介しました。

後半の住本充弘講師による「これから包装の考え方」では、環境配慮素材や規制強化、新たな技術活用など、包装を取り巻く変化に対応するための視点が示されました。包装は単なる容器ではなく、情報、安全性、ブランド体験を担う総合技術であるとして、ライフサイクル全体を踏まえた設計の重要性が強調されました。

また、素材選択から物流までの連携が品質や効率を左右すること、持続可能性への対応が企業競争力に欠かせないことが海外事例とともに示され、参加者にとって実務に直結する内容となりました。



古平会長



道明副会長



住本 充弘講師

日本包装管理士会 会長 古平 篤（25期）挨拶 「包装管理士講座第60期合格者の皆さんへ」

日本包装管理士会の会員の皆さん こんにちは。また、包装管理士講座を修了され、晴れて合格された皆さん、心からおめでとうございます。日本包装管理士会・会長の古平です。25期です。

まず、包装管理士講座で合格された皆さんをお迎えできることを、とてもうれしく思っています。この数カ月、きっと簡単な道ではなかったと思います。仕事を終えた夜に机に向かったり、テーマに悩んだり、仲間と意見を交わしながら形を作っていく——そんな時間の積み重ねだったでしょう。その一つひとつが、今日につながっています。講座で得た知識ももちろん大切ですが、同じ時間を過ごした仲間との出会いこそ、いちばんの財産だと思います。

年齢も職場も違う人たちが集い、語り合い、時に励まし合ったあの日々。その関係はきっとこれからも続いていくはずです。そして今日からは、「包装管理士会」というもう一つの輪の中に加わっていただきます。ここには、全国の包装管理士たちがそれぞれの立場から活動しています。セミナーや研究会、懇親の場など、学びと交流の機会が一年を通して開かれています。どうぞ気軽に顔を出してみてください。そこには、皆さんと同じように学び続ける仲間がいます。話をしてみると、業界のこと、仕事のこと、時には人生の話まで、思いがけないつながりが生まれるものですね。包装というのは、単に“ものを包む”だけの技術ではありません。の中には「思いやり」や「届けたい気持ち」があります。そして、皆さんにはこれから、胸を張って「包装管理士」と名乗っていたいだきたいと思います。名刺に「60期 ○○番」と記載し、その肩書を、自らの努力と誇りの証として刻んでください。自分と会社をアピールして下さい。

日本包装管理士会 紹介スライドより



日本包装管理士会の 新たな歩み

日本包装管理士会（IPP）は、包装管理士資格者による自主的な活動団体として、半世紀以上にわたり学びと交流の場を提供してまいりました。これまで「包装界・10大ニュース」をはじめ、会員誌の発行「ippニュース」、セミナーや工場見学、交流会などを通じて、包装業界に役立つ情報の発信と会員同士の情報交換を続けてきました。

今年、私たちは内部に設置した再構築委員会の提言を受け、全国の会員がどこに居ても参加できるイベントの強化と、各地域の活動を支援する仕組みの充実を積極的に進めようとしています。「学びと交流、そして親睦」を合言葉に、会員一人ひとりの経験と関心を結び合わせ、広がりのある活動を進めてまいります。



なぜ変わらるのか

包装を取り巻く環境は、サステナビリティへの対応、国際・国内の法規制、デジタル化の進展など、かつてないスピードで変化しています。こうした課題は、一社・一人で抱え込むのではなく、知識と経験を持ち寄ることで、素早く現実的な解決につなげることができます。

同時に世代交代が進み、若い世代の視点とエネルギーが求められています。私たちは、境界を越えて学び合い、ゆるやかに連携し、小さく試し、成果を積み重ねるネットワーク型の運営へと舵を切ろうとしています。

① IPPの新しい方向性

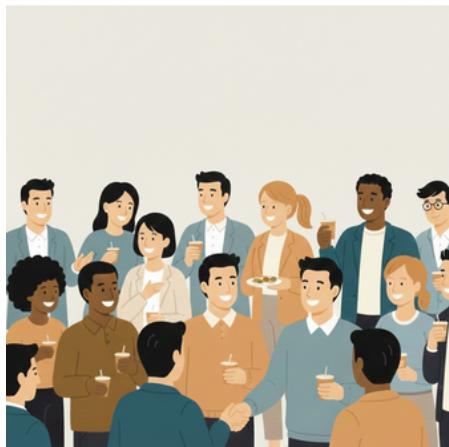
- 境界を越えた学び合い
- ゆるやかな連携
- 小さな試みの積み重ね
- ネットワーク型運営

これからのIPPが目指す姿



北海道支部 だより

北海道支部長
會田 慶太（47期）



新年あけましておめでとうございます。

新年あけましておめでとうございます。管理士会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしだったでしょうか。

2025年は十二支でいうと「巳（み：へび）」年、十干では「乙（おつ：きのと）」の年となり干支は「乙巳（きのと・み）」でした。乙巳には、「努力を重ね、物事を安定させていく」といった縁起のよさを表しているようです。皆様の一年はどうでしたか？

そして、2026年は午の年、そして2026年は60年に一度しかこない丙午です。丙午は「情熱と行動力で突き進む」「燃え盛るようなエネルギーで道を切り開く」といった縁起のよさが表されているようです。

私が居るこの北海道は、乙巳であった2025年は大変な年になってしましました。2024年同様の猛暑の影響で農作物の不作、海水温上昇による水産資源の減少。局地的な大雪。インバウンド増によるオーバーツーリズムの影響。日本国内ではどうでしょうか？まさかのコメ不足、岩手の大火事、長嶋茂雄さんの死去、日米の関税問題、秋頃からのクマ騒動、国内大手企業のサイバー攻撃被害。もちろん良い出来事もたくさんありましたが、思い返すとまさに激動の年であったかのように思ってしまうのは私だけでしょうか？

さて、我々北海道支部について少し報告をさせて頂きます。昨年の支部活動として、コロナ後6年ぶりに合同親睦会を開催させていただきました。11月には包装管理士合格証書授与式及びその後の懇親会を開催いたしました。両行事ともにお互いの親睦を深めることができ、有意義な会になったかと思っております。特に親睦会では多数のメンバーが入れ替わり、新たな人脈を作れたのではないかと感じました。2026年も親睦行事の充実を図ってまいります。

2026年、包装界に身を置く私たちの取組は、あらゆる物価高に対するコストダウン、異常気象等をもたらす環境への対策強化、2024年から続く物流問題に対する積載効率化提案であると思っております。ぜひ、包装管理士会全勢力をあげて取組に注力してまいりたいと考えております。上記の取組をしっかりと実行し、まさに「丙午」のような一年にしましょう。

良い一年になることを祈念して、年始のご挨拶とさせていただきます。

2025年12月

東北支部 だより

東北支部支部長
鈴木 雅彦（23期）

新年あけましておめでとうございます。
昨年より北東北地方ではクマの出没が相次ぎ、世間をお騒がせしております。私の町でも、市から目撃情報が毎日のようにメールで届いており、これも気候変動の影響なのでしょうか。ここで、東北支部の活動についてご報告申し上げます。

■ 10月16日 WEB フォーラム（JPI東北支部との共催）

テーマは「完全循環型で海洋生分解性があり成型可能で透明な『板紙』」。

講演者は、国立研究開発法人 海洋研究開発機構（JAMSTEC）副主任研究員 磯部 紀之 様でした。

JAMSTEC が有人潜水調査船「しんかい 6500」による調査で、深海底が包装容器など使い捨てプラスチックで汚染されている実態が明らかになったことを受け、海にやさしい新素材として「透明な板紙」を開発された経緯、透明性・加工性・循環型製造プロセス・深海底での生分解性など、多岐にわたりご紹介いただきました。多くの皆さんにご参加いただき、誠にありがとうございました。

■ 11月6日 東北包装研究発表大会・合格証授与式・囲む会

東北支部のメインイベントである「東北包装研究発表大会（卒業論文発表会）」「第 60 期包装管理士講座 合格証授与式・新包装管理士を囲む会」を、40 名を超える参加者で盛大に開催しました。

研究発表大会のコーディネートおよび講評は IPP で担当しました。生活者包装・輸送包装コースの受講生が初めて顔を合わせる貴重な機会となり、囲む会では新包装管理士の皆さんのがいに盛り上がっていました。仙台会場からは 15 名が合格されました。



■ 11月7日 工場見学会（JPI 東北支部との共催）

翌日は 25 名の参加者を迎えて、ヤマト運輸(㈱宮城ベース)の工場見学会を開催しました。今回は初めて日本 MH 協会にもご案内したところ、予想以上に多くの希望が集まりました。

宮城ベースは全国屈指の取扱量を誇るクール宅急便に対応した最新自動仕分け機を導入しており、150 坪の冷蔵・冷凍倉庫を併設。水産加工品・農産物などを柔軟に保管・発送できる体制が整っています。

冷蔵は 0~10°C、冷凍は -15°C 以下に対応し、自動仕分けにより鮮度を保持したまま通過情報も管理されます。12 月には 1 日最大 100 千個（10 万個）のクール宅急便を扱い、全国では博多と 1 位・2 位を争う規模とのことでした。

作業員はミャンマー・ネパールの留学生が中心で、宅急便は 24 時間稼働。3PL 倉庫（営業倉庫）も運営し、一部では医薬関連の洗浄作業なども行っています。仕分け現場は集中モニターで 150 か所を監視し、滞留時にはマイクで指示を出していました。

また、場内にゴミ箱は置かず、盗難防止の観点から透明袋のみとする点が印象的でした。

課題としては「荷札のはがれやすい段ボール」「手掛け穴が破損原因になる箱」「異形箱」「クール BOX の空荷戻りによる非効率」「充電設備の電力負荷」など、多くの実務的なお話を伺うことができました。

現場を実際に拝見し、CtoC 物流の大変さを改めて実感しました。質疑応答も活発で、大変有意義な見学会となりました。

東北支部の今後の予定

2 月には会場対面での包装講演会を予定しております（詳細は決まり次第ご案内します）。さらに 4 月には東北支部最終総会、臨時総会も控えています。任期も残りわずかとなります。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

■ 12月18・19日 第 63 回 全日本包装技術研究大会（仙台）

仙台にて開催されます。特別講演として、北三陸ファクトリーCEO 下苧坪 之典 様に「うにの再生養殖で、世界の海の“砂漠化”の危機、磯焼け問題に立ち向かう」をご講演いただきます。18 日夜には、IPP 東北支部として、包装管理士・コーディネーターの皆さんをお招きして懇親会を江陽グランドホテルにて開催します。

■ 1月22日 2026 年度 東北包装界 新年名刺交換会

JPI 東北支部と共に開催いたします。

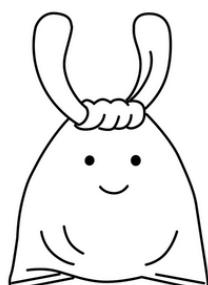
新春講演は「東北弁落語～なまつて笑ってコミュニケーション～」。落語家 六華亭 遊花さんにご登壇いただきます。

「ippニュース」に関するお知らせ

今後も、カラーで見やすい誌面づくりと、皆さまの活動や学びにつながる充実した内容をお届けできるよう努めてまいります。誌面のさらなる向上のため、皆さまからのご意見やアイデアも歓迎しております。取り上げてほしいテーマや企画のご提案などがございましたら、ぜひお寄せください。

また、WEBでの情報提供を拡充していくにあたり、メールでのお知らせが欠かせない状況となっております。最近、事務局からお送りしたメールが一部で不達となる事象が確認されています。お手数ですが、迷惑メール設定や受信環境をご確認いただき、メールが届きにくい場合は事務局（ipp@pk9.so-net.ne.jp）までご連絡ください。皆さまへの情報が確実に届き、より親しみある「ippニュース」を育てていけるよう、引き続きご協力をお願い申し上げます。

つつむ君から の手紙



西日本支部 だより

西日本支部支部長
末松 洋亮（25期）

西日本支部は、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。また、昨年と同様、関西支部ともWEBセミナー情報の共有などを行いました。JPI西日本支部殿と連携し、より充実した事業となるよう取り組んでいます。

◆第60期 包装管理士合格者

JPI西日本支部では22名（生活者包装コース15名、輸送包装コース7名）の包装管理士が誕生しました。合格された皆さん、おめでとうございます。

合格者の中で14名が管理士会へ仮入会されました。今後は来年度の正規入会に向けてIPP活動について案内を行っていきます。

包装事例研究発表会、IPP西日本支部50周年式典（記念品授与）、合格証書授与式及び懇親会

- ・日程及び会場：2025年10月29日 西鉄イン福岡 Aホール
- ・講演者：第60期包装管理士受講者（4名）が
包装改善の取り組みを発表
- ・参加者：関係者を含め26名



懇親会の様子

包装事例研究発表会の様子

◆今後の活動予定

JPI西日本支部殿との共催事業を計画しています。

中部支部 だより

2025年度は、昨年度に引き続きJPI中部支部と連携して、オンライン形式での研究例会開催を中心としつつ、一部事業については対面形式での実施も取り入れて、会員各位への情報提供や研修フォローに対する多様なニーズに対応してまいります。

【第60期包装管理士講座:合格証書授与式・交流懇親会】

11月7日（金）、「第60期包装管理士合格証書授与式」が開催されました。名古屋会場では、今年度60名の新包装管理士が誕生し、優秀合格者として春日井製菓販売㈱の佐藤静様と㈱アイシン・ロジテクサービスの酒井伸明様の2名が銅賞を受賞されました。授与式には、IPP中部支部から北原圭介支部長が出席し、新包装管理士へ管理士会の活動を紹介するとともに入会の勧誘を行いました。

また、続けて開催された交流懇親会では、同期の包装管理士との交流や講師・テクニカルソポーターの皆様との歓談で盛り上がる中、サプライズでIPP中部支部より恒例の「頑張ったで賞」の贈呈が行われ、㈱チューゲンの永井太樹様（輸送コース）とDICグラフィックス㈱の前田祐輔様（生活者コース）が受賞されました。この賞は、合格を手にするために協力いただいた同僚や家族の方へ感謝の気持ちとして渡せるお菓子となっています。



「合格証書授与式」の模様



「交流懇親会」の模様

【2025日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会】

12月11日（木）、JPI中部支部との共催で恒例の「2025日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会」を、Zoomウェビナーでのオンライン聴講とウインクあいちでの会場聴講のハイブリット形式にて開催しました。

〈工業包装部門賞受賞〉『小型トナーカートリッジの包装箱～既存に捉われないシンプル設計～』（エトリア株式会社：柴田晃男氏）、
〈適正包装賞受賞〉『ClearE-Sheet－世界初！生産時のプラスチックごみを70%削減できるPTPシート』（CKD株式会社：西尾真吾氏）、
〈日本貿易振興機構理事長賞受賞〉『スラリーポンプの機種兼用包装材の開発』（ナビエース株式会社：北條 貴裕氏）、
〈共用品推進機構理事長賞受賞〉『持ちやすさと混ぜやすさ、環境負荷軽減を追求した新しい納豆トレー』（株式会社Mizkan：町川 司氏）と、いずれも中部地域の入賞作品4件の発表が行われ、包装設計における各社の工夫や開発経過の紹介をいただきました。

関西支部 だより

木野元 朝幸（36期）

関西支部では、会員の皆様にメリットを感じてもらえる様々な活動をしている。その中で、メルマガの発行継続、好評いただいている工場見学会&セミナーの2回／年開催などの取り組みを継続している。また、一人でも多くの会員に事業参加、技術研鑽いただくため、30期～59期の会員に支部への要望等についてアンケート調査を行った。今後は調査結果を参考に事業に取り組んでいきたい。

1、活動報告

◆見学会&セミナー（25年度1回目）

2025年9月18日 14:00～17:00

兵庫県立工業技術センター

① 兵庫県立工業技術センター見学

② セミナー

「県立工業技術センターにおける包装試験とガス透過試験の活用」

兵庫県立工業技術センター

材料・分析技術部（化学・バイオグループ）

研究員 博士（工学）

酢谷 陽平様

*見学

最初に兵庫県立工業技術センター（以下、兵庫工業技術センター）次長の平瀬 龍二様より、工業技術センターの説明をしていただいた。

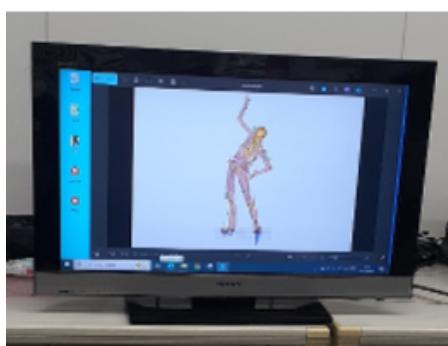
兵庫県の他、公立の工業技術センターは約60機関あり、試験・研究・相談・指導などを行い、地域の中小企業の振興を図っている。公設の工業技術センターは日本独自であり、「公設試」と呼んでおり、英語表記も「Kosetsushi」である。

兵庫工業技術センターは1917年に創設され、現在は46名（内24名博士号）の研究員がおり、約270の機器・装置を開放している。

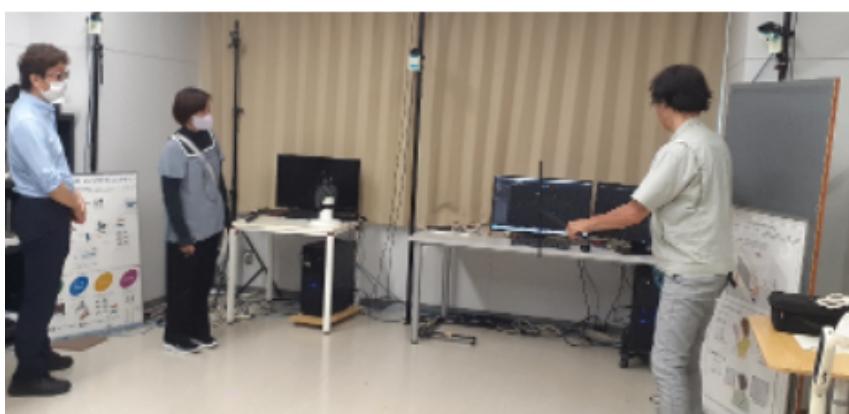
見学では人の動きをデータ化し、どこの筋肉を使っているか数値化する「光学式モーションキャプチャー」の紹介や異臭分析機器、水素を分析することができるガス透過装置などを紹介いただいた。

「光学式モーションキャプチャー」で、掃除機やランドセルの開発に活用された。異臭分析では日本酒の開発に活用されている。ガス透過装置はフィルムを透過する水素の量を測定することができ、6cm角の試料（フィルムやゴム）を厚さ $10\mu\text{m}$ ～3mmまで測定できる。兵庫県はゴム産業が盛んであり、ゴムのガス透過測定にも対応できる様に厚さ3mmも測定可能となっている。通常は厚さ1mm程度が多い。

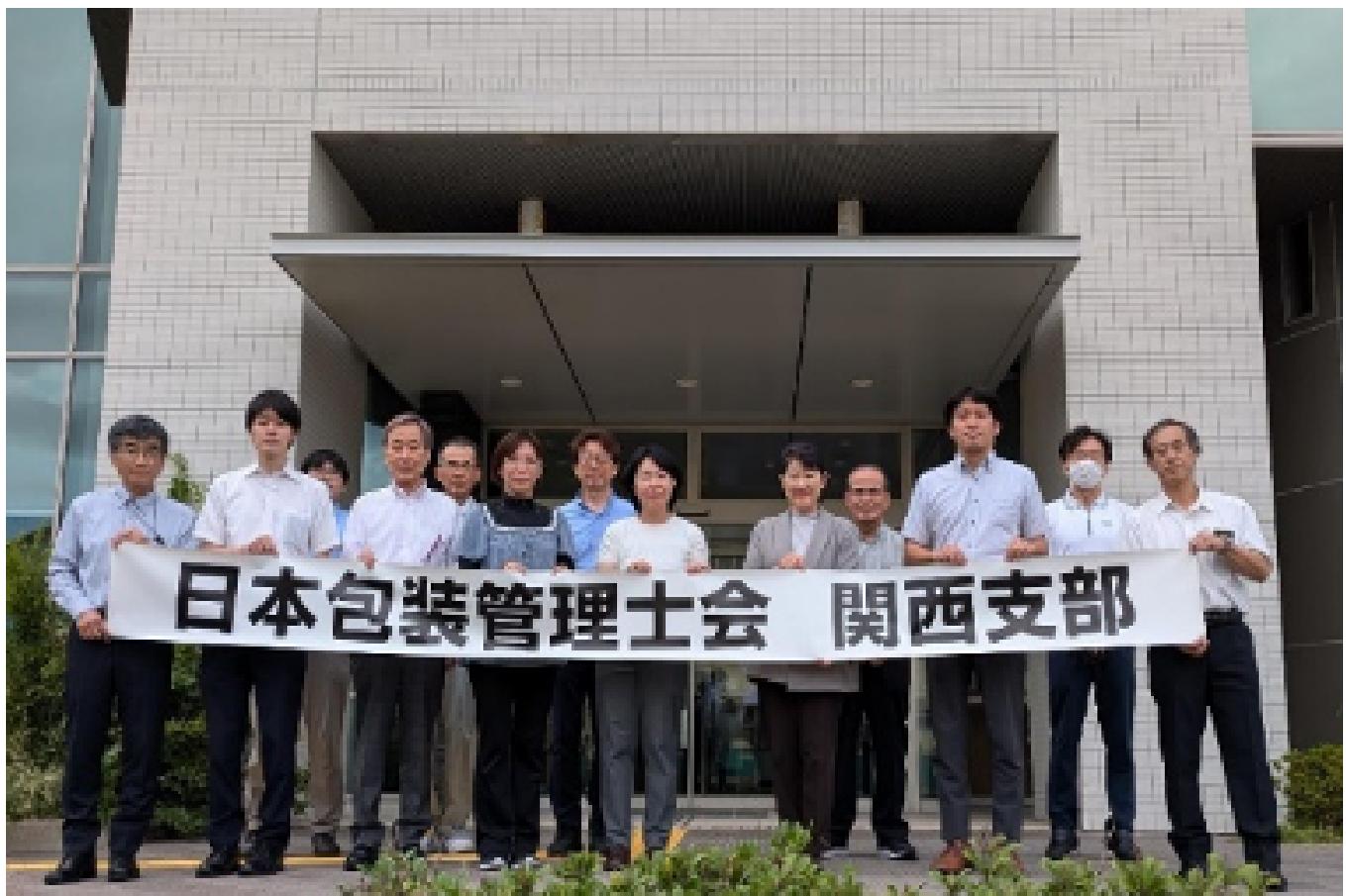
装置の実演や活用事例を紹介いただき、私たちの生活に結び付いていることが実感でき、非常に関心を持てる見学であった。



人間工学
「光学式モーションキャプチャー」
モニター



人間工学「光学式モーションキャプチャー」



*セミナー

セミナーでは兵庫工業技術センター研究員の酢谷 陽平様より、包装試験機や専門分野であるガス透過装置の説明をいただいた。ガス透過装置がある公設試は、茨城、神奈川、静岡、愛知、滋賀、奈良、愛媛、兵庫のみであり、水素を透過できるのは神奈川と兵庫だけのこと。ガス透過装置は加湿不可であり、水に弱いバリアフィルムの測定はできない。

乾燥した気体の透過試験に対応しており、金属を鋸びさせるガスの試験は不可。ガス透過装置は差圧式であり、空気層と真空層の圧力差により、ガスがフィルムを透過して真空状態の層へどれだけ移動したのか測定する。

水に弱いフィルムの透過を測定する場合は、ガスバリア性測定装置を使用する。等圧式でフィルムの加湿ができる。ガスがフィルムを通じて他のガスに溶け込んだ量を測定する。

紙とプラスチックの複合パッケージのガス透過試験があり、大半はNGである。プラスチックが紙を覆うことが難しいとのこと。今後はバイオプラやリサイクルプラの検討も増え、ガス透過試験も益々増えると考えられる。



平瀬次長



酢谷講師

包装関係の試験機器に関するも落下試験機、段ボール圧縮機、振動試験機があり、それらを備えている公設試も数少ないとのこと。

落下試験機は茨城、静岡、愛知、大阪、兵庫、小型機であれば、群馬、東京にある。小型機はスマホの落下試験などで使われるとのこと。

段ボール圧縮試験機は埼玉、静岡、愛知、大阪、兵庫にあり、兵庫の段ボール圧縮試験機は25tまで荷重を掛けができる。

商品の価格改定などによる内容量削減などで包装を見直す機会も増え、包装試験機の活用も増えていくと思われる。

セミナー終了後、参加者から多くの質問が寄せられ、活発なセミナーであった。



交流会参加の皆様

◆包装管理士会&W会 第16回合同研究会

2025年10月16日 16:00~18:00

大阪市立難波市民学習センター

① 「サステナブルパッケージを志向した

ガスバリア性接着剤の開発とモノマテリアル包材への展開」

三菱ガス㈱ 小林 菜穂子様

*リモート講演

② 「包装の現場から食品安全審査員への転身」

～キャリアチェンジから見えた食品安全と品質～

ISO9001/22000、FSSC22000審査員

岡 美奈様

三菱ガス㈱の小林 菜穂子様より、脱酸素剤「エージレス」、酸素吸収フィルム「エージレス オーマック」やガスバリア性接着剤「マクシープ」を紹介いただいた。「エージレス」は密閉容器内の酸素を吸収し、脱酸素状態（酸素濃度0.1%以下）とし、食品の「おいしさ」や鮮度の保持、賞味期限延長ができ防虫効果もある。また金属検知器で検知可能。国内では福島県白河市で生産できる他、国外でも生産できる体制になっている。また「エージレス オーマック」は液体などの包装にも対応し、内容物が可視化でき、缶からフィルム包装への変更が可能。

「マクシープ」は優れたガスバリア性を有する新タイプの接着性樹脂であり、エポキシ樹脂、アミン硬化剤からなる2液系エポキシ硬化システムである。「マクシープ」の使用により汎用包材へのバリア性



小林講師

が付与され食品の賞味期限延長が可能。フィルムを屈曲するとシワや折れなどのクラックが発生し、バリア性が悪化するが、「マクシープ」は硬化型であるためクラック発生を抑制できる。またウレタン系接着剤と比較し優れた耐薬品、耐内容物性がある。

環境対応として、「マクシープ」を使用することで90%以上同一素材包材同士を接着させてもミドルバリアやハイバリア化でき、モノマテリアル化が可能。リサイクル性の観点よりモノマテリアルがトレンドとなっている。

「エージレス」、「エージレス オーマック」、「マクシープ」などにより、賞味期限延長によるフードロス削減、樹脂量削減、CO₂排出量削減に繋がる。



岡講師

岡 美奈様より、ISO9001/22000、FSSC22000の説明や審査員にキャリアチェンジするまでの経緯を説明いただいた。特にキャリアチェンジする際「人生の台本は決まっているのかも？自分がこうだと信じた道が正しい」、「生きていくて、自分にとっておもしろいことを見つけていけば良い」との言葉が印象的であった。

大阪府内の勤務先の工場閉鎖に伴い、三重県内の新工場への転勤か退職・転職を迫られた際、自分の本音は転勤したくないと気付き、転職を決意した。

その後就職支援機関の提案で、研修や実地訓練を経て個人事業主としてISO9001審査員となり、その後食品衛生マネジメントシステムであるISO22000やFSSC22000の審査員となった。

ISOは目標達成が主であるが、FSSCは品質管理の要素もある。FSSCはオランダ「FSSC財団」のプライベート規格であり、食品小売業が中心となって設立された。要求事項の更新頻度が3年に1回と多く、3年に1回の非通知審査もある。審査員も3年に1度の審査があり合格しないと継続できない。

審査員となり包装関係を始め、様々な現場を見る能够一方、出張が多い、定年がないためいつ辞めるのか考えないといけないなど、良かった点や困った点なども説明いただいた。また審査では指摘より気づきを促す、倫理・柔軟性・協調性などの人間的力量、公正性が大切のこと。

審査している中で、ルールを作っているが守られておらず不適合になる例が多いとのこと。

ISOやFSSCについての説明だけでなく、勤務している工場閉鎖に伴うキャリアチェンジの経験など、非常に内容が濃い講演であった。



岡講師講演風景



集合写真



祝辞 IPP入会案内（支部長 桃川）



金賞受賞者 岡 裕章氏

◆包装管理士講座 合格証書授与式 & 祝賀会

2025年10月24日 16:30~18:30
ハートンホテル北梅田

第60期包装管理士講座 大阪会場での合格証書授与式に来賓としてIPP支部運営委員5名が参加。

生活者包装コース65名、輸送包装コース28名が合格。

大阪会場では成績優秀者・金賞をレンゴー㈱の岡 裕章氏、銀賞をUCC上島珈琲㈱の三川 津香沙氏、銅賞をフジシールの谷島 大介氏が受賞された。大阪会場で金賞・銀賞・銅賞すべてを受賞するのは第60期が初めてとのことであった。加えて大阪会場での優秀者「KPI賞」を4名が受賞された。



金・銀・銅賞 & KPI賞を受賞された方々
左より 野崎氏、多村氏、谷島氏（銅賞）、
岡氏（金賞）、三川氏（銀賞）、川上氏、田原氏

◆第2回テクニカルミニセミナー

2025年11月12日 15:40~18:00
大阪市立総合生涯学習センター

①「バイオプラスチックに関する国内外の動向」
㈱カネカ 松井 仁司様

②「透明バリアフィルムの技術動向と環境に配慮した
サスティナブルなバリア包材の紹介」
元TOPPAN㈱ 吉永 雅信様



松井講師

㈱カネカの松井 仁司様より、使い捨てプラスチックに関わる諸問題と各国の規制、バイオプラスチックの市場動向や種類やサプライヤー、今後の課題について説明いただいた。

地球は温室効果ガス排出による気候変動、プラスチックごみ排出による海洋汚染問題に直面している。

プラスチック汚染世界条約やEUの包装及び包装廃棄物規則(PPWR)などがあり、環境中に残留しやすいプラスチックから優先して取り組む。

バイオプラスチックは微生物分解「生分解性プラスチック」とバイオマスを原料とした「バイオマスプラスチック」があり、特性を理解し目的にあったバイオプラスチックを使用しなければならない。

PLA（ポリ乳酸）はジャガイモやトウモロコシの糖質を発酵させて得られた乳酸を原料とする。ネイチャーワークスが最大手。PBS/PBSA（ポリブチレンサクシネット／アジペート）は植物由来の原料を使用している。PBSAは海洋分解性があり、海洋分解性バイオマスプラ認証を取得している。三菱ケミカルグループが開発。PHA（ポリヒドロキシアルカノエート）はカネカが開発し、特殊な微生物に栄養を与えてその体内で生産する。生物生産型のため海水中でも比較的短期で分解する。スターバックスのストローに採用された。

2023年までにバイオプラスチック約200t/年の導入を目指しているが、コストが2~5倍、食料資源を原料とする、他のバイオ燃料と原料が取り合いになる、経時での品質低下や耐久性などに課題がある。

バイオマスプラスチックが普及しても継続して3Rに取り組む必要がある。



吉永講師

吉永 雅信様より透明バリアフィルムの技術動向と環境に配慮したサステナブルなバリア包材の説明をいただいた。

透明バリア蒸着フィルムは温度・湿度によるバリア劣化が少なく、レトルト殺菌・電子レンジ対応、金属検知器の使用可、直接印刷、易焼却性などのメリットがある。

TOPPANではガスバリア性付与パッケージにおいて2020年度は63,000tのCO₂を削減できた。透明蒸着フィルムはPETやNYにシリカ(SiO_x)やアルミナ(Al₂O₃)を蒸着加工し酸素遮断性・防湿性・保香性などに優れている。市場規模は2025年には401億米ドルに到達予定。透明バリアフィルムは電子レンジの世界普及率40%以上から市場が立ち上がった。3S(シングル・すみどり・シニア)、超高齢化、働く女性の増加が原因と考えられる。

液体容器もアルミ箔+PETから蒸着フィルムに置き換えされ、紙容器化された。紙は環境に優しいパッケージ素材と思われている。紙の端を折り曲げたEP(エッジプロテクト)や間伐材を使用したカートンカンがある。カートンカンは美味しさと長期保存を両立できる紙容器である。カートンカン・ハイバリアは12ヶ月保存できる。

またモノマテリアル化(単一素材)によりリサイクル適正も向上している。インフルエンザなどの検査キットの包装、住宅の引き戸、鍛の防止、インキカートリッジ、帶電防止などに使用されている。

オレフィン素材でモノマテリアル化した東レの「トレファン」、TOPPANのOPP基材バリアフィルム「GL-SP」などを紹介いただいた。

紙バリア材も日本製紙「シールドプラス」、王子エフテックス「シリビオシリーズ」、三菱製紙「バリコート・バリジェルパ」、ハンソル製紙(韓国)「HansolEB/PE」、自然界で水と二酸化炭素に分解される植物由来の生分解性セルロースフィルムをコーティングしたフタムラ化学「Nature Flex」、東洋製罐グループHDが開発した日本発セルロースナノクリスタルを使用したバリア性紙容器「新エコクリスタルカップ」などを紹介いただいた。



交流会参加の皆様



集合写真

2、関西支部の今後の予定

◆第60期包装管理士合格記念ツアーリー（参加費無料）

2026年2月18日 14:00~16:00

クロネコヤマト関西ゲートウェイ 見学

◆見学会＆セミナー（25年度2回目）

2026年3月5日 14:00~17:00

①見学会 サラヤ株式会社 大阪工場・スマイル産業株式会社

②セミナー 「プラ資源循環とサラヤの取り組み」 サラヤ㈱ 濱口 慎治様

◆第56回ミニセミナー

大阪関西万博出展企業の方に講演を依頼。

2026年3月25（水） 15:40~18:00

① アスカカンパニー㈱

② サラヤ㈱

③ ㈱高木包装

皆様方の御参加 お待ちしております。



関東支部 第3回オンラインセミナー開催

古平 篤（25期）

昨年より、オンラインセミナーを開催しております。第3回目となる関東支部のオンラインセミナーが、2025年9月8日（月）PM 13:30～16:40まで開催され、会場の池袋アットビジネスセンターより発信いたしました。

セミナーの内容は住本充弘氏（住本技術士事務所）『PPWRにみる循環型パッケージと今後の日本の包装の対応』と森 泰正氏（パッケージング・ストラテジー・ジャパン代表）『米国の最新包装規制とアジアの動き』の2つのセミナーでした。住本様は自宅からZoomで、森様は会場までお越しいただきました。今回もオンラインで沢山の方が参加されました。



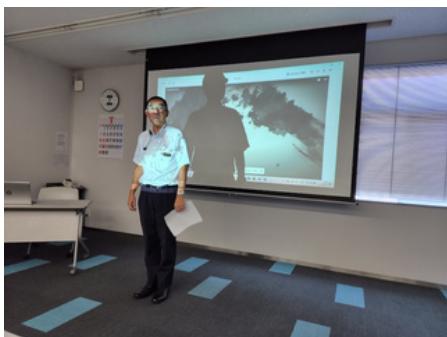
第60期 包装管理士「東京会場合格証書授与式」に参列いたしました。

須藤 貴行（31期）

10月17日（金）午後3時からAP日本橋で開催された、包装管理士合格証書授与式に古平支部長・福野理事・須藤事務局の三名で来賓として、参列致しました。東京での受講者およそ290名のうち、128名の方が出席されました。主催者代表のJPJ園山専務理事の挨拶の中で、包装管理士会へ入会する意義の大切さについて、触れていたいのが印象的でした。合格者全員の名前の報告の後、輸送・生活者両コース代表の合格証書受け取りに続き、7名の優績者の発表がありました。その後、古平会長より合格者の皆さんへ祝辞と包装管理士会の事業の説明・60期歓迎セミナーの告知を致しました。

授与式閉会後、会場を移し懇親会となり、道明副会長の挨拶・乾杯の発声を合図に皆で手分けして、71名の方と名刺交換致しました。これを基に無料体験期間に各種行事の呼びかけを進めていきます。





IPP見学会

福野 壽史（16期）

実施日：2025年9月17日（水曜日）

見学場所：
1) 長島梱包株式会社 横浜港事業所
2) 帆船・日本丸、横浜港博物館

参加人数：見学会14名、情報交換会10名

実施報告

朝から澄み切った青空、風が少々感じられる日となり、まずは天候の中で実施をすることができました。時期的にまだまだ暑さ厳しい折、参加をいただきました皆様には御礼申し上げます。みなとみらい線・横浜元町中華街駅周辺でのスムーズな集合・時間通りの行動に感謝いたします。

長島梱包様までマイクロバスを利用しました。10分程で到着、早々に建物屋上からの景観を楽しみ記念撮影、続いて会議室での熱のこもった業務内容説明を受けた後、現場見学をさせていただきました。各種精密機器・プラント・重量物などの梱包、包装設計、各種包装資材の販売、などなど幅広い部門に活躍されています。梱包内での湿気対策、荷崩れ対策などのご苦労話も聞かせていただき、貴重な体験をさせていただきました。





横浜と言えば港や船を思い浮かべますが、帆船日本丸と博物館の見学をしました。日本丸は、1930年（昭和5年）に建造され国の重要文化財に指定されています。学芸員の説明を受け、帆船日本丸の活躍がどれほど素晴らしかったのかを知ることができました。みなと博物館では横浜港の歴史や仕組みと役割などを学びました。

情報交換会はJR桜木町駅から徒歩約5分程の野毛地区メイン通り入口に位置しています居酒屋「百万石」で17時20分頃から開催されました。IPP見学会に初めて参加した方々も含め得られた情報について意見交換がされました。

申込みは募集人数の15名でしたが、直前で1名から欠席案内があり14名で実施されました。参加者それぞれが目的を持って参加されていました。約2時間の懇親も含めて無事終了し19時過ぎに会はお開きとなりました。



IPP関東支部見学会

福野 壽史（16期）

実施日： 2025年11月11日（火曜日）

見学場所： 日清オイリオグループ株式会社 横浜磯子工場

参加人数： 見学会12名、情報交換会11名

実施報告

JR磯子駅改札口に12時55分の集合予定にしましたが、2名ほどが遅れた為、また13時に正門前の待ち合わせもありましたので、先発隊を設け2班に分けて出発をしました。

日清オイリオグループ様は磯子駅東口に隣接する位置にあり横浜スタジアム7個分の広さを持つ工場です。1963年に建設された工場で、現在まで62年間の年月が経っているそうですが工場敷地内はよく整備されており、見学にはマイクロバスの移動、8万5千トンの船が横付けできる専用岸壁を有しているなど見ごたえのある工場でした。

特に印象に残ったことは製品在庫は自動倉庫と平置き倉庫を併用して保管し、災害有事にも対応できるようにしているとのことでした。また、見学終了時には30分程の時間を設けていただき質問なども交えた勉強をさせていただきました。予定通り15時には見学を終了し、情報交換会が行われる横浜駅に向け出発しました。

横浜駅西口から徒歩7分ほどの「はまの家西口店」で16時から情報交換会は開始されました。今後の見学会開催候補企業様、12月4日に開催予定の忘年会、海外研修の復活などの話題で盛り上がり、約2時間の会談で18時過ぎに閉会となりました。

ご参加いただいた会員の皆様、ありがとうございました。





関東支部 理事研修会を開催

大野 豊（38期）

8月29日・30日、水上温泉「ホテル湯の陣」で、関東支部の理事研修会が行われました。温泉地ならではの落ち着いた雰囲気の中で、参加したメンバー同士がゆっくりと向き合い、今後の支部のあり方について話し合う充実した時間となりました。

研修会ではまず、再構築後の支部財政について意見交換が行われました。今年度を最後に本部からの交付金制度が終了することから、これから3年間でどのように事業を進めていくか、無理のない計画づくりを進めていく方針が共有されました。地域活動に関する基準額については、今後の本部理事会で決まる予定です。

続いて、理事会の開き方や進め方についても話し合われ、従来の予定を大切にしながら、支部長や事務局、役員同士がしっかりと連携して進めていこうという思いが確認されました。

今年度の活動については、秋に向けて見学会やスキルアップセミナー、写真研究会など、学びの機会が続きます。また、10月のBBQや12月の忘年会や食べ歩き企画など、みんなで楽しめる催しも盛りだくさん。さらに、関東支部55周年記念パーティの開催も前向きに検討されています。

温泉の湯気に包まれながら語り合った今回の理事研修会は、支部にとってこれからの歩みを温かく後押しする2日間となりました。





IPP写真研究会 柴又帝釈天撮影会

福野 壽史（16期）

実施日：2025年10月7日（火曜日）

参加者：4名

会場となりました柴又地区には帝釈天の他に「寅さん記念館」や「山本亭」など見どころが満載ですが、帝釈天をメインで撮影会を行いました。天候は朝から雲が多く、暑くもなく・寒くもなく、多少の湿度が感じられる日中でした。

柴又駅前の寅さん銅像前に集合、ガイド役を福野が務め、それぞれカメラ片手に参道の店などを覗き見して楽しみました。
帝釈天境内では「瑞龍の松」や「御神水」、「大鐘楼」などを撮影し帝釈天の中へ。

素晴らしい彫刻や整えられた庭園など撮りどころ満載です。

2時間程の撮影後の懇親会は金町地区まで移動し、撮影会を振り返り1時間30分ほどの雑談の中、終了しました。
人出の多い「庚申の日」でもなく平日でしたが多少の賑わいもあり、楽しい撮影会となりました。



平林寺「紅葉」撮影会報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲（23期）

実施日：2025年11月28日

参加者：5名

写真研究会は埼玉県新座市にある古刹「金鳳山 平林禅寺」で、紅葉撮影会を行いました。

平林寺は臨済宗妙心寺派の別格本山で、13万坪の武蔵野の面影を残す境内を有し、観光バスツアーが組まれる紅葉の名所です。

11月28日金曜日は快晴で、光が安定し、混雑によるシャッターチャンス待ちが少なく、ベストに近い色着きのモミジを十二分に撮影。お昼には平林寺での撮影を終わらせました。

電力王松永安左エ門所縁の「睡足軒」も見て、新座市役所近くで昼食し、解散しました。

なお、次回撮影会は春3月開催を目指しています。



平林寺総門で参加者

IPPコミュニティ BBQ報告（異業種交流会）

古平 篤（25期）

IPP関東支部では、2025年10月12日（日）13:00～15:00に、朝倉理事のご協力のもと、東京・板橋区の中台サンシティBBQ広場にてコミュニティ（BBQ／異業種交流会）を開催しました。

当日は、日本包装管理士会の会員7名をはじめ、早稲田大学板橋稻門会の会員、その他の参加者を含む計55名が参加しました。

多様な職業の方々が集まり、和やかな雰囲気の中で活発な交流と意見交換が行われました。異業種ならではの視点や新たな気づきが多く得られ、次回の開催を期待する声も寄せられました。



関東支部 忘年会を開催

古平 篤（25期）

関東支部の忘年会が12月4日（木）18:30～20:30まで桜なべ中江別館 金村で行われ、13名が参加しました。今回は、来年の干支であるさくら肉料理の店です。

「桜なべ中江別館 金村」は、吉原最後の料亭「金村」を中江が引き継ぎ、新しく生まれ変わらせたお店です。「金村」は吉原遊郭の茶屋として栄え、政界・財界のお客様も愛用した伝統ある料亭でした。今回はこの伝統的なお店で忘年会を行いました。

参加者は吉原に唯一残った明治創業の蹴飛ばし屋（さくら鍋屋）でさくら肉料理を食べながら情報交換会と来年の抱負を語りあいました。また、余興として投扇興を楽しみました。



編集後記

凜とした空気に身が引き締まるような、そんな年のはじまり。皆さまにとって、どのような幕開けとなつたでしょうか。

昨年は、物価の上昇が暮らしにじわりと影を落とす一方で、社会や人々の動きには少しずつ新たな兆しも感じられた一年でした。今年はどんな時間を重ね、どんなつながりが生まれるでしょうか。小さな会話や偶然の出会いが、思わぬ学びや気づきにつながることもあります。ippニュースもまた、そんな交流のきっかけとなるような誌面づくりを目指してまいります。記事を通じて、皆さまの声や活動がさらに広がっていくことを願って。

本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。健やかで、実りある一年となりますように。

(ippニュース編集委員会 道明誠)

日本包装管理士会 /Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
<https://www.ippj.net/>

■本部	〒 104-0045	東京都中央区築地4-1-1-東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL : 03-3543-9250 FAX : 03-3543-8970
■北海道支部	〒 060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内/日本包装技術協会・北海道支部内	TEL : 011-241-8591 FAX : 011-241-3898
■東北支部	〒 021-0893	岩手県一関市地主町 3-35 株式会社東北ウエノ内	TEL : 0191-21-4531 FAX : 0191-21-5381
■関東支部	〒 204-0002	東京都清瀬市旭ヶ丘2丁目4-4-510	jimukyoku@ipp-kanto.org
■中部支部	〒 460-0003	名古屋市中区錦3-5-21 錦HOTELビル 3D 日本包装技術協会内	TEL : 052-228-2930 FAX : 052-228-2980
■関西支部	〒 550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	携帯 : 090-4305-3906 (桃川) FAX : 06-6584-8986
■西日本支部	〒 849-0917	佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬870-1 ※八田 彰 西日本支部 事務局長宅	携帯 : 090-4586-7509 tsubonoue2019@gmail.com

日本包装管理士会 会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 FAX: 03-3543-8970 ☎03-3543-9250

フリガナ	会員番号	番
氏名	届出日	令和 年 月 日
会社	社名 所属 住所 〒 TEL E-mail	FAX
自宅	住所 〒 TEL E-mail	FAX